

富士山

3776m

富士山は日本で一番高い山です。そしてとても美しい山です。雄大なすそ野を広げた富士山の秀麗な姿は多くの人々を魅了し、信仰の対象となり、万葉の時代より詩歌にうたわれ、数々の文学や芸術作品に登場してきました。

富士山は、長い火山活動の結果として今日のような雄大な景観を見せてくれています。北アルプス剣岳の初登頂に挑んだ測量隊の姿を描いた新田次郎の「剣岳点の記」に登場する登山家の小島烏水は、その著書「不尽の高根」の中で富士山の雄大さを「試みに富士山の断面図を一見すると…(中略)…頂上奥社から海拔一万尺の等高線まではかなりの急角度をしているとはいえ、そこから表口、大宮町までの間、無障碍の空をなだれ落ちる線のその悠揚さ、そのスケールの大きさ、その延びりとした屈託のない長さは、海の水平線を除けば、凡そ本邦に於いて肉眼をもって見られ得べき限りの最大の線であろう」(青空文庫)と表現しています。

富士山は、本年6月、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。



新幹線富士川橋梁からの富士山(富士市)

富士山は活きている火山

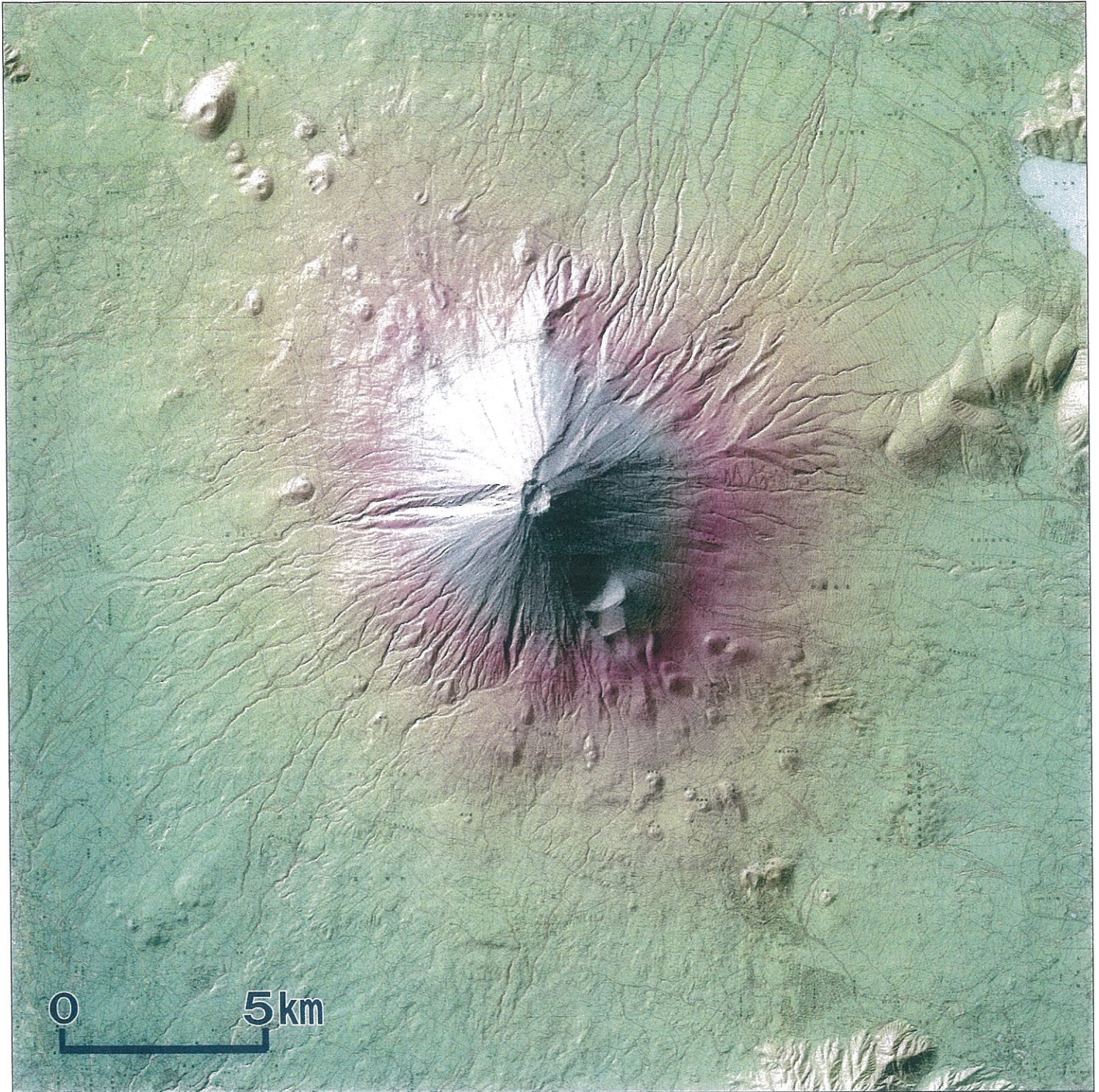
富士山は東京の西南約 100km、山梨県と静岡県にまたがる成層火山です。豊富な地下水が得られる広大なすそ野は早くから人々の生活の場となり、農耕が営まれ、集落も形成されてきました。東海道をはじめ関東と関西を行きかう人々は富士山を仰ぎ見ながら旅を続けました。一帯はいま日本有数の観光地となっています。このように富士山は私たちに豊かな恵みを与えています。

一方、富士山は火山としての厳しい姿も持ち合わせています。記録の残る大きな噴火も知られていません。平安時代初期の漢文学者である都良香は「貞観噴火（864年）」の際の火口の様子を「富士山記」に聞き書きしています。多くの記録や考古学的な調査により、古くから人々が噴火し噴煙を上げる富士山とともにあったことを伝えています。

富士山は、江戸時代の「宝永噴火（1704年）」以来 300年、鳴りをひそめていますが、火山の長い活動の中ではほんのつかの間の休止にすぎず、今後、噴火する可能性のある活火山です。



富士山に見られる火山活動の痕跡



この地図を見ると、富士山の山頂を中心に、北北西から南南東にかけて、側火山と呼ばれる火山の山腹斜面にできた小さな火山がいくつも存在していることがわかります。その多くは数 m ~ 100m 程度の高低差のスコリア丘ですが、図の左上の大室山のように高低差が 300m 近い大きなものもあります。

山頂の右下、南東の山腹に大きく口を開けているのは、江戸時代の宝永4年（1707年）に噴火した宝永火口です。第1から第3まで3つの火口があり、山頂火口よりもはるかに大きいことが見てとれます。山頂付近から西に延びる大きな亀裂は「大沢崩れ」と呼ばれる巨大な崩壊地です。

この図は、「数値地図 10m メッシュ (火山標高)」「富士山」のデータから作成したものです。「数値地図 10m メッシュ (火山標高)」は、5千分1あるいは1万分1火山基本図の等高線から計測・計算して求めた数値標高モデル (DEM) で、火山基本図を東西及び南北方向にそれぞれ 10m 間隔で分割して得られる各方眼の中心の標高値が記録されています。

富士山のおいたち

現在の富士山は、小御岳火山や愛鷹火山の一部を覆っていた古富士火山ができ、さらに古富士火山を覆うように新富士火山が成長してできたと考えられています。近年、小御岳火山の下位に先小御岳火山が存在していることが、ボーリング調査の結果明らかになりました。

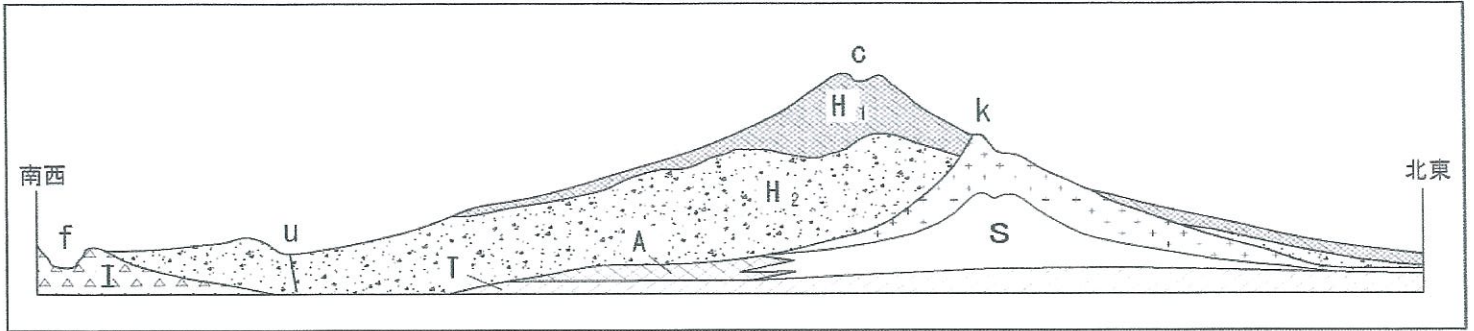
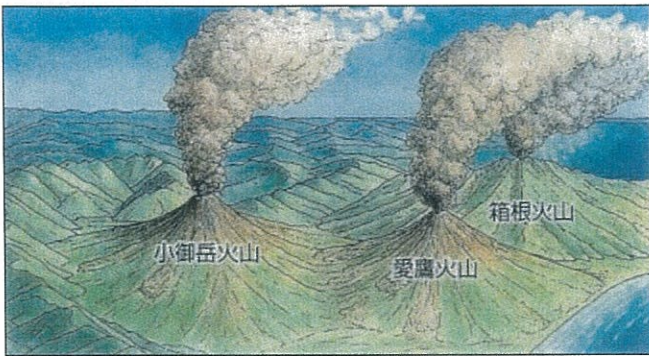


図1 富士山の模式的な断面図（津屋,1940 を中田ほか,2007 を参考にして一部修正）

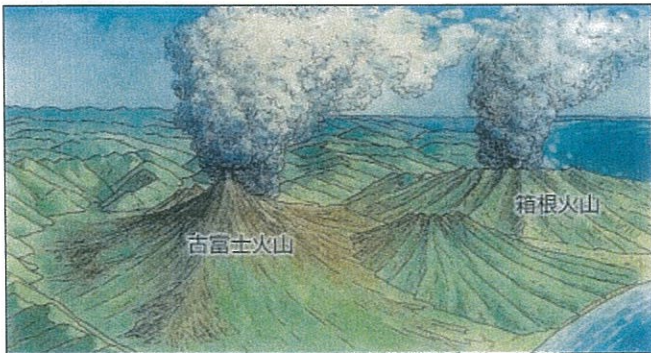
c 富士山頂、H₁ 新富士火山、H₂ 古富士火山、k 小御岳及び小御岳火山、S 先小御岳火山
A 愛鷹火山の一部、I 第四紀層、T 新第三紀層、f 富士川、u 潤井川

■小御岳火山の時代



今から約 70～20 万年前に、現在の富士山山頂の北側に小御岳火山と呼ばれる火山が誕生しました。

■古富士火山の時代



約 10 万年前になると、小御岳火山の中腹で古富士火山が噴火を開始しました。古富士火山は爆発的な噴火を繰り返し、少なくとも5回の山体崩壊を発生させました。

■新富士火山の時代



約1万年前になると、古富士火山を覆うようにして新富士火山が噴火を開始しました。約1万年前～8千年前ころには、三島市や大月市付近などに到達するような大量の溶岩を流出させました。

図-2 富士山のおいたち（富士砂防工事事務所，2001）